

「あおり土づくりの匠」活動事例

「あおり土づくりの匠」は、地域の生産者に対する土づくり技術の指導者、県が主催する研修会等の講師として活躍しています。

「あおり土づくりの匠」を講師として、先進的な健康な土づくりや環境にやさしい農業の取組に関する研修を希望する場合には、食の安全・安心推進課、または最寄りの地域農林水産部までお問い合わせください。

(敬称略)



【福土忍顕(24年度認定:板柳町)】



【坂本佐兵衛(24年度認定:蓬田村)】



【山田清徳(25年度認定:十和田市)】



【荒関敬悦(25年度認定:中泊町)】



【種市精一(25年度認定:三沢市)】



【中里徳支(26年度認定:五戸町)】

問い合わせ先 青森県農林水産部食の安全・安心推進課
TEL:017-734-9352 FAX:017-734-8086

<平成26年度版>



あおり土づくりの匠



県では、平成24年度から「日本一健康な土づくり運動」の一環として、県内の生産者の模範となる高度な土づくりに取り組む生産者を「あおり土づくりの匠」として認定しています。

本リーフレットでは、平成26年度に認定された9名を紹介します。

「あおり土づくりの匠」はどんな人?

「あおり土づくりの匠」は、高度な土づくりを実践し、地域農業のリーダーとして指導的な役割を担う耕種農業部門と高品質な堆肥を生産・供給している畜産農業部門の生産者です。

○耕種農業部門

- ① 土壌診断や堆肥等の有機質資源を活用し、良質な農産物を安定的に生産しており、他の生産者の模範となるような技術や知識を有している。
- ② エコファーマーなどの環境にやさしい農業に取り組んでいる。

○畜産農業部門

- ① 一般社団法人青森県畜産協会主催の堆きゅう肥品評会で3回以上入賞した良質な堆肥を生産し、供給している。
- ② 生産した堆肥が周囲の生産者に利用されている。

「あおり土づくりの匠」の主な役割

地域の生産者に自身の土づくり技術の指導や消費者等に対する情報発信などの活動を行います。



【平成26年度認定証書授与式】

【「健康な土づくり」とは?】

農作物が良く育つ土壌環境を整えるため、土壌診断に基づいて、堆肥などの有機質資材や土壌改良資材を適正に施用し、深耕や輪作などを組み合わせた適切な管理を行い、土壌の物理性・化学性・生物性のバランスがとれた土をつくることです。

平成24年度からの認定者については、県ホームページ「『日本一健康な土づくり運動』展開中!」で御覧いただけます。

平成26年度に認定された「あおもり土づくりの匠」

(①主な品目、②取組内容、③周囲への効果等、④主な役職、社名等)

(敬称略)

佐藤 耕一 (弘前市)



- ① トマト
- ② 土壌診断に基づく適正施肥、オガクズ入り発酵鶏糞など有機質肥料の施用により化学肥料の低減に取り組み、青森県特別栽培農産物認証を取得
- ③ トマト産地の育成や研修生の受入による土づくり技術の普及に尽力
- ④ 県農業経営士、JAつがる弘前特別栽培トマト部会長

工藤 秀明 (平川市)



- ① りんご
- ② 土壌診断に基づく有機質肥料や牛ふん堆肥の施用、草生栽培により化学肥料を施用しないりんご栽培を実践するとともに、エコファーマー認定を取得
- ③ 園地視察の受入等による土づくり技術の普及に尽力
- ④ 県農業経営士、平川市認定農業者連絡協議会会長等を歴任、株式会社 釈迦のりんご園 代表取締役

中里 徳支 (五戸町)



- ① ながいも、にんにく
- ② 緑肥を組み入れた輪作体系と豚糞完熟堆肥を施用した土づくりにより、土壌消毒に頼らないながいも栽培を実践し、安定した収量と品質を確保
- ③ 園地視察の受入による土づくり技術の普及や若手農業者の育成に尽力
- ④ 上区営農生産組合長

成田 健二郎 (板柳町)



- ① りんご
- ② 土壌診断に基づくボカシ肥料などの有機質肥料を施用し、化学肥料や除草剤を使用しない環境に配慮したりんご栽培に取り組み、青森県特別栽培農産物認証を取得
- ③ 園地視察の受入等により地域農業の発展に尽力
- ④ 有限会社 成田りんご園 代表取締役

仁和 正一 (十和田市)



- ① ながいも、ごぼう
- ② 完熟堆肥生産・活用、土壌診断に基づく堆肥成分を加味した適正施肥、環境にやさしい肥効調節型肥料の施用により化学肥料の低減に取り組み、エコファーマー認定を取得
- ③ JA十和田おいらせミネラル野菜(トムベジ)の牽引役として尽力
- ④ JA十和田おいらせ野菜振興会ごぼう専門部会役員

大久保 芳樹 (十和田市)



- ① ながいも、にんにく
- ② ゼオライトを混合した完熟堆肥生産・活用、土壌診断に基づく堆肥成分を加味した適正施肥、環境にやさしい肥効調節型肥料の施用により省力で安定した収量と品質を確保
- ③ JA十和田おいらせミネラル野菜(トムベジ)を牽引するとともに、若手農業者の育成に尽力
- ④ -

立花 肇 (三沢市)



- ① ながいも、ごぼう
- ② 土壌診断に基づく適正施肥、緑肥を組み入れた輪作、豚糞・鶏糞を原料とした堆肥の生産・活用により化学肥料の低減に取り組み、エコファーマー認定を取得
- ③ 野菜産地の育成や土づくり技術の普及に尽力
- ④ JAおいらせ野菜推進委員会監事等を歴任

村山 淳一 (野辺地町)



- ① こかぶ
- ② 土壌診断に基づく適正施肥、緑肥を組み入れた輪作、牛糞堆肥の活用により化学肥料を低減
- ③ 「野辺地葉つきこかぶ」産地の育成に尽力
- ④ 県農業経営士、JAゆうき青森こかぶ部会長

木立 純一 (平内町)



- ① 堆きゅう肥(乳用牛)
- ② 牛糞と籾殻を原料にロータリー式強制攪拌により、発酵させた堆肥を年間600トン生産
- ③ (一社)青森県畜産協会主催の堆きゅう肥品評会で、3回入賞、良質な堆肥を県内生産者へ販売
- ④ 県名誉農業経営士、青森県農業経営者協会副会長等を歴任